

瀬戸市教育大綱

令和6年度～令和9年度

ふるさとに誇りと愛着をもち

ひら

まちと未来を拓く人づくり

本市の将来像である“住みたいまち 誇れるまち 新しいせと”を目指し、「住む」「働く」「学ぶ」「育む」といった暮らしの4要素が充実したまちづくりを推進するためには、「まちづくりは人づくり」という視点が大変重要となります。また、教育は「人を育て、まちを育てる」ものであり、本市のまちづくりの重要な礎となるものです。

本市は、長い間培われてきた、瀬戸焼をはじめとするものづくり文化や歴史などの地域資源とそれらを育んできた豊かな自然環境に恵まれています。こうした本市特有の地域資源と自然環境を活かした学びの機会を創出することにより、“ものづくりのまち瀬戸”に対する郷土愛を醸成し、さらには自己肯定感や一人ひとりの多様な幸福感（ウェルビーイング）を育んでいくことは、まちづくりにおいて大変重要であると考えています。

性別や年齢などを問わず、誰もが生涯を通じて学ぶことのできる環境づくりを推進し、すべての市民の皆さまがまちづくりに参加できる機会を創出することにより、先人たちが築いてきた本市の暮らしや歴史を、子どもたちにつないでいきたいと考えています。

さらに、子どもたちを取り巻く環境が複雑化・多様化する中、誰一人取り残されず、相互に多様性を認め、子どもたちの可能性を引き出していくためには、学校と地域の連携・協働がさらに重要となってきます。学校・家庭・地域が連携し、社会全体で教育を推進する“地域とともにある学校づくり”に引き続き取り組むとともに、9年間を見通した小中一貫教育の深化など教育環境を整備し、ウェルビーイングの向上と、子どもたちの多様な教育ニーズに対応したきめ細やかな教育の推進により、「まちと未来を拓く人づくり」を目指してまいります。

本市の教育は、これまでも、学校だけでなく、家庭や地域全体で担い、支えてきました。現代のめまぐるしく移り変わる社会においても、先人から引き継がれてきた教育風土をさらに発展させ、“瀬戸市らしい”教育によるまちづくり、人づくりを進めてまいります。

令和6年3月

瀬戸市長 川本雅之

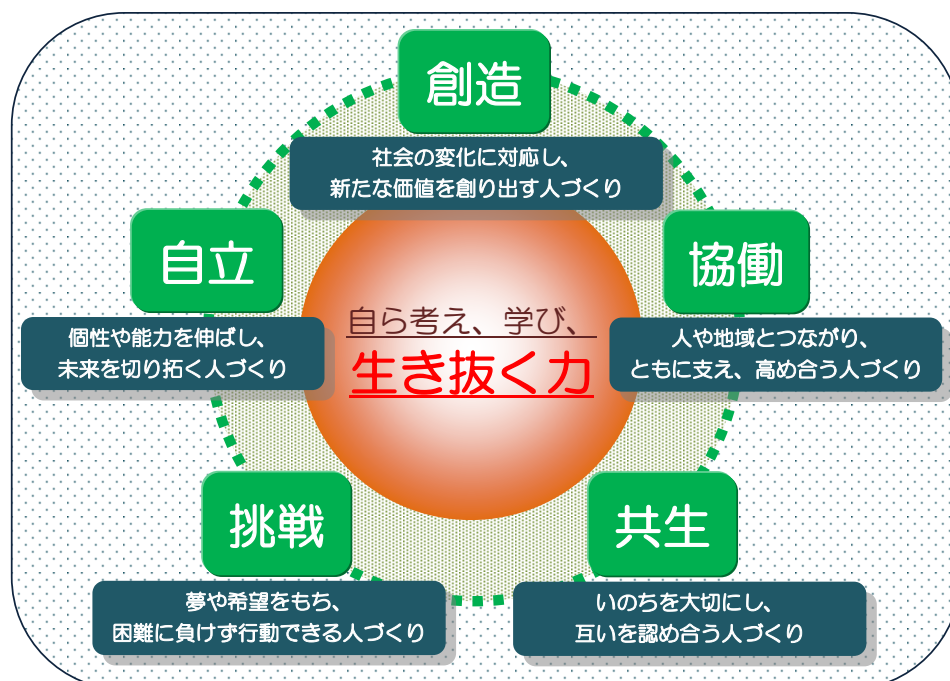
●基本理念

- 瀬戸のすべての子どもたちが「瀬戸で学んでよかった」
- 瀬戸のすべての親たちが「我が子を瀬戸で育ててよかった」
- 瀬戸のすべての市民が「瀬戸で生きてよかった」

●基本的方向性

「自ら考え、学び、生き抜く力」を育成するために、5つの基本的な方向を目指します。

- 創造：社会の変化に対応し、新たな価値を創り出す人づくり
- 自立：個性や能力を伸ばし、未来を切り拓く人づくり
- 協働：人や地域とつながり、ともに支え、高め合う人づくり
- 共生：いのちを大切にし、互いを認め合う人づくり
- 挑戦：夢や希望をもち、困難に負けず行動できる人づくり



●視点

- 一人ひとりの異なる価値観などの個性を認め合う“多様性”の尊重
- 家庭・学校・地域とともに、社会全体で子どもを育む“横”の連携
- 生涯学習社会*に向けて、年齢や成長に応じた切れ目のない“縦”の接続
- 適正な学習環境と魅力ある学校づくりによる“信頼”の構築

*生涯学習社会：生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会のこと。

●具体的な取組み

- 小中一貫教育の深化など教育環境の整備
- ウェルビーイングの向上につながる教育の推進
- 多様な教育ニーズに対応したきめ細やかな教育の推進
- 図書館本館を、生涯学習及び交流の拠点としてリニューアル